

令和8年度 埼玉県がん教育指導者研修会

越谷市立武蔵野中学校

第2学年 保健体育(保健分野)

「健康な生活と疾病の予防」

(ウ)生活習慣病などの予防

授業者 鈴木 美紀 田邊 伸二

研究の目的

【がんに対するイメージ 事前アンケート】

子供でもなる人が多い病気

命にかかわる病気

ほとんど治らない **死ぬ**

治すのに多額のお金がかかる

遠いようで身近にある存在

タバコが原因

怖い、

治りにくい

年配者に多い

ご飯が食べられなくなる

早期発見で治すことができる

一度かかったら終わりの病気

いろいろな種類がある

研究の目的 【事前アンケート】

【事前アンケート結果】 令和7年6・8月実施 対象：第2学年91名

	質問	そう思う	どちらか というと そう思う	どちらか というと 思わない	そう思わ ない
1	がんは身近な病気だと思う	68	17	3	3
2	がんは怖い病気だと思う	85	6	0	0
3	がんは遺伝的な病気です予防できないと思う	15	25	36	15
4	がんは誰もががかかる病気であると思う	54	21	9	7
5	家族や身近な人と、がんについて話し合おうと思う	19	34	25	13
6	がんの学習は、健康的な生活に役立つと思う	67	21	2	1
7	がんについて学ぶことで、命の大切さを考えることができると思う	69	18	4	0
8	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う	40	34	14	3
9	自分はがんにならないと思う	7	21	30	33
10	体調が悪くなったら、病院を受診すると良いと思う	64	22	5	0
11	がんになると日常生活が困難になると思う	74	16	1	0
12	がん患者が過ごしやすい世の中にしたいと思う	53	35	2	1
13	がん患者が過ごしやすい世の中にするためには、医療従事者にかかっていると思う	32	36	20	3
14	がん患者が過ごしやすい世の中にするために、自分にもできることがあると思う	38	36	14	3
15	がん患者が過ごしやすい世の中にするための方法を理解し、実践できる力が自分にはあると思う	14	36	31	10
16	がん患者や、経験者の話を聞いたことがある	ある 28	ない 63		

	質問	正しいと 思う	誤りだと 思う
1	タバコを吸ったり、過度な飲酒をしたりするとがんになりやすい	89	2
2	性的接触により、がんになることがある	47	44
3	注射器の使い回しにより、がんになることがある	72	19
4	がん患者と手を繋いだり、ハグをしたりすることで、がんになることがある	5	86
5	がんは大きくなるまで自覚症状がない	64	27
6	各がんのがん検診率は85%である	58	33



研究の目的

【アンケート結果】

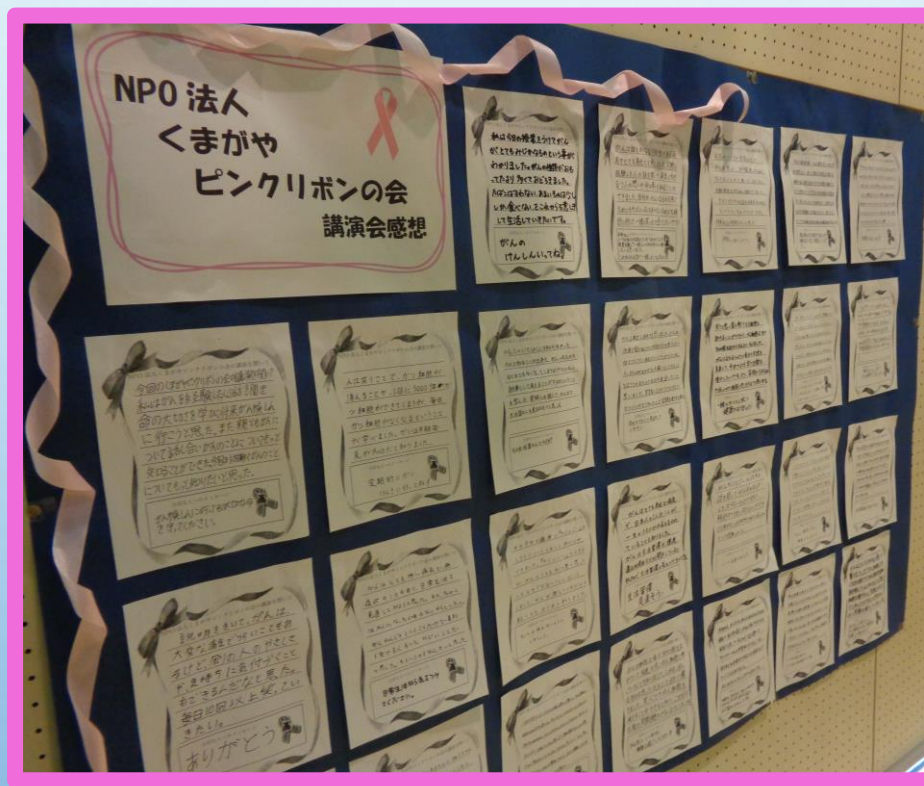
- **がん**に対するネガティブなイメージを持っている
- **がん**についての知識が漠然としている
- **がん患者**へのかかわり方が分からない



- **がんの正しい知識の習得**
- **がんと向き合い、自分らしく生きていくために**

事前学習

くまがやピンクリボンの会によるご講演



サバイバー差別 キャンサーギフト

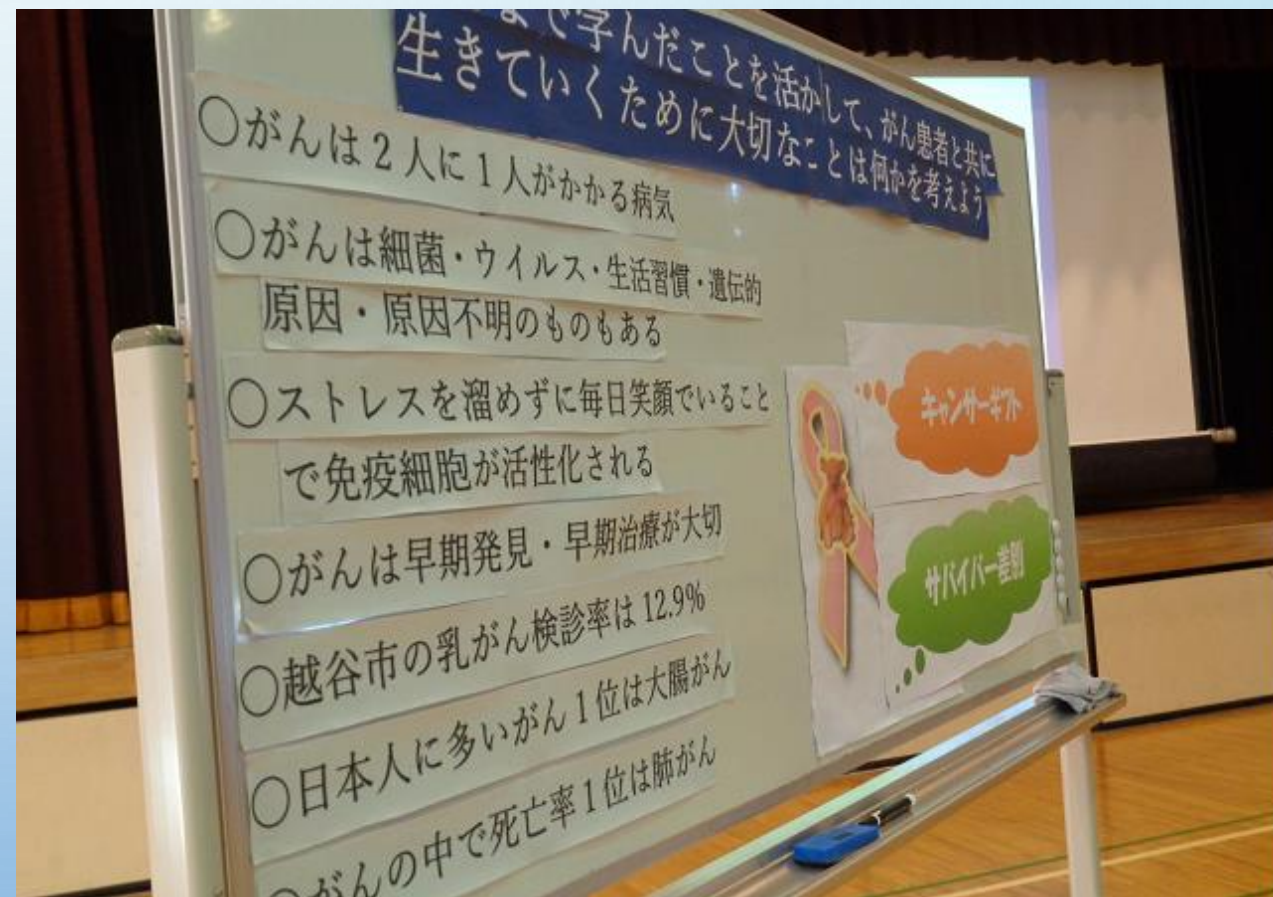
● 単元計画(全3時間)

1時間目 生活習慣病とその予防

2時間目 がんの発生要因とその予防

3時間目 がん患者への理解と共生

実践内容【導入】



実践内容 【学習課題】

これまで学んだことを活かして、
がん患者と共に生きていくために
大切なことは何かを考えよう。

実践内容 【事例1についてのグループワーク】

事例1 【Aさんの事例】

友人に自分が大腸がんになったことを伝えた時「生活習慣が悪いからがんになったんだ」と、あっけらかんと言われました。

私は共働きで、妻と交代で食事を作っていましたが、常にバランスの良い食事を心がけていたつもりですし、妻もせめられているような気持ちになり、悲しくなりました。

がんに対する誤解や決めつけがなくなればと思います。



事例1

- 気が付いたこと、考えたこと
がんには偏見がある
がんは食生活だけ気をつけてればいい病気ではない
- どのような言葉かけや関わり方をしますか？
友人ががんに勝てるように応援し、寄り添って手伝える事があれば
率先して手伝ってがんを早く治してもらえるようにしたい
治ってからの楽しみを考える
がんの理解を深める

事例1

- 気が付いたこと、考えたこと
がんは生活習慣だけでなってしまうものではないからすぐに決めつけられて酷いと思う
- どのような言葉かけや関わり方をしますか？
治ってからの楽しみをつくる
今まで通りに接する
話を聞く
気持ちを尊重する
楽しい雰囲気になる会話を振る

正しい知識を持ち、がん患者を理解することで、共に生きることができる。

実践内容 【事例2についてのグループワーク】

事例2

私の親は、数ヶ月前から具合が悪そうでした。

ある日、大事な話があると言われ、がんに罹患し、抗がん剤治療をしていることを打ち明けてくれました。私の親は、ここ数ヶ月打ち明けることをすごく悩んでいたのだと思います。



事例2

- 気が付いたこと、考えたこと
- 家事などの身の回りのことや介護をする
- 抗がん剤治療の辛さを知る
- いつも通り接する
- 兄弟で協力し合う

事例2

- 気が付いたこと、考えたこと
- 抗がん剤治療は体調だけでなく、精神的にも辛いと思うから、悩みを聞いてあげる、家事を積極的に行う
- 学校であった楽しかったことなどを話す
- 些細なことでも気を使う
- 親にかかる負担を減らす

中学生の自分たちにも、がん患者に寄り添って、支えることができる。

実践内容

【グループワークの様子】

少人数でのグループワーク
で自分の考えを伝えたり、
友達の考えを聞いて考えを
広げたり深めたりする。

事例について、
まずは自分の考えを書き出す。

グループで出た考えをまとめ、発表することで、
より考えを広げたり深めたりことができる。

・まとめ

振り返り

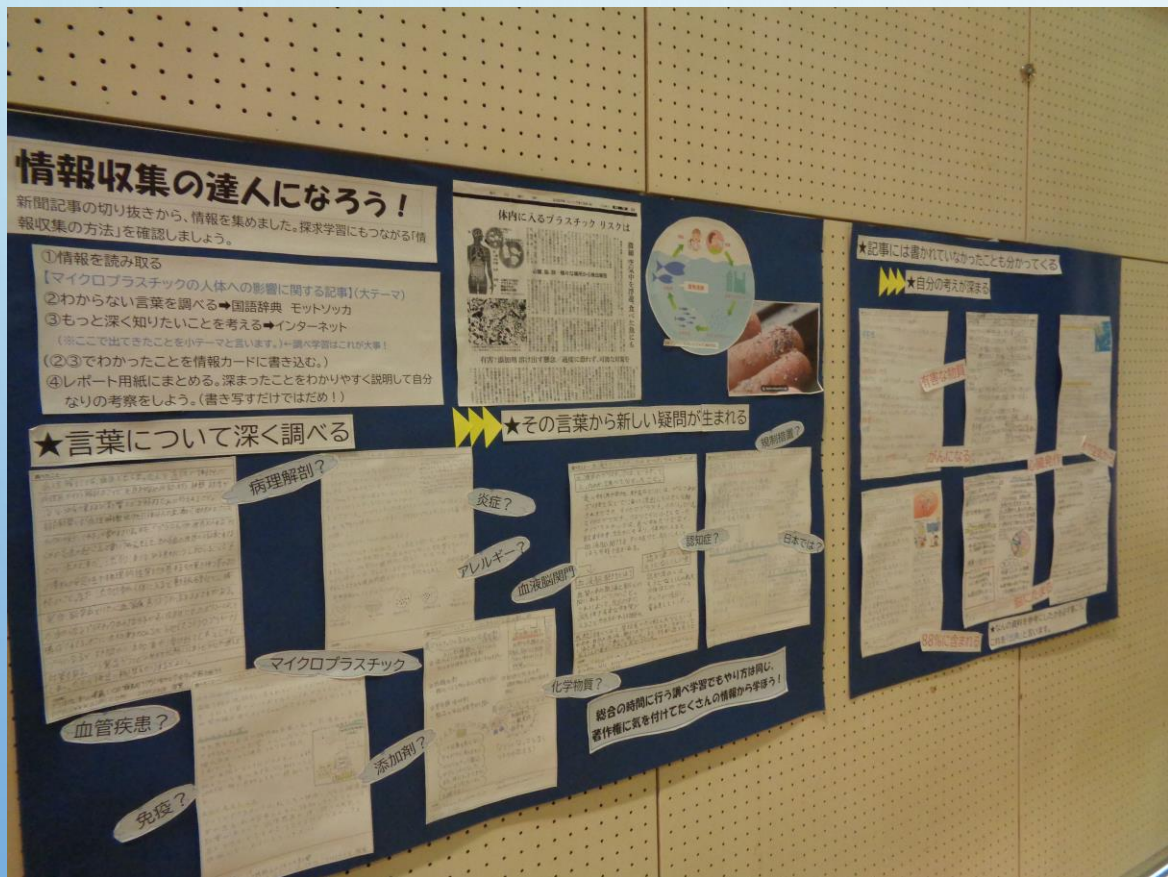
がんはだれもがなるかもしれない病気でそれにはいろんな原因があって、なるものだから「あれが悪かったから」とか「いつもこうだから」とか決めつけたり、誤解したりしないようにしようと思った。がん患者を支えるためには種類によってどんな病気なのかや副作用がどんなものなのかをちゃんと知り、それにあった支えをすることが必要だとわかった。気持ちを尊重して、話を聞いて、がん患者の人の中にある暗い気持ちを周りの人が少しでも明るく変えられるようにしたいと思った。

・まとめ

振り返り

がんの偏見などをやめ、がんについて勉強して、身の回りの人がもしがんになってしまったときは励ましの言葉をかけてあげたり近くに寄り添って何かを手伝ったり検診に一緒に行きあげたりする事が大切だとわかった。他の人のことだけでなく自分自身も気をつけながら生活していく事が大切だと思った。

学校内での連携



事後学習

川口短期大学 こども学科専任講師
西内 俊朗先生 によるご講演



成果と課題

【成果】

- がんに対し正しい知識を得て、適切に向き合おうとする姿勢を育むことができた。
- 「健康な生活と疾病の予防」から発展的な学びへとつなげ、罹患された方とともにによりよく生きるための実践意欲を高めることができた。

【課題】

- 教科等横断的に授業を展開することができれば、今回の研究をより深めることができた。



ご清聴
ありがとうございました。

